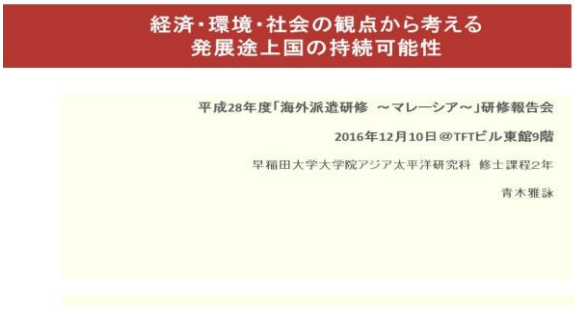
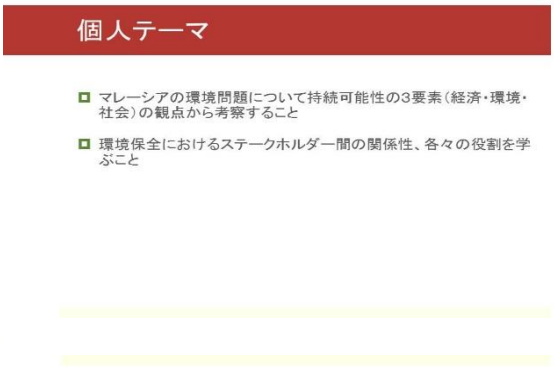
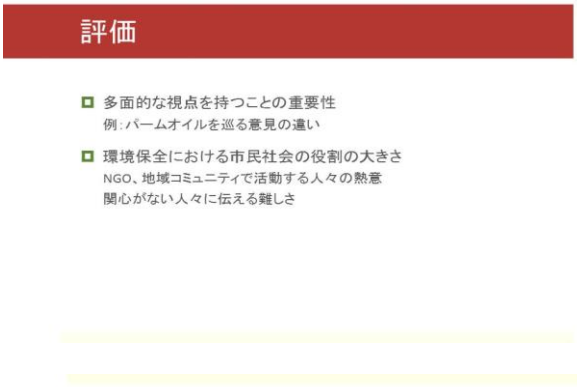
第４章　資料

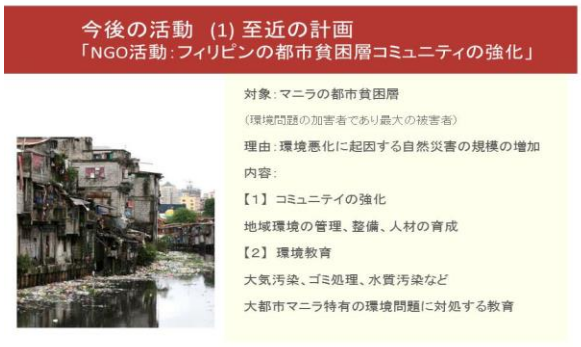
１．研修報告会発表資料

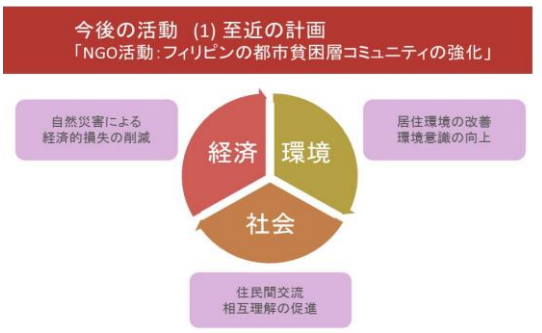
青木雅詠「経済・環境・社会の観点から考える発展途上国の持続可能性」







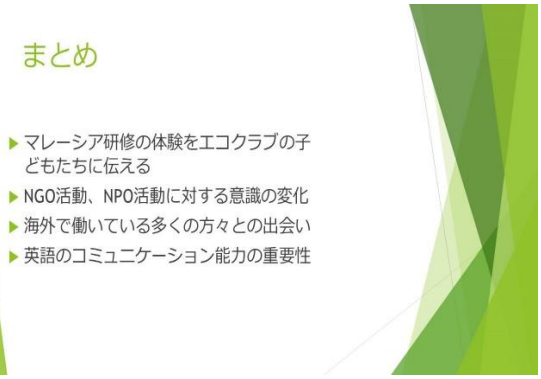




金子ちあき「マレーシアにおける環境保全と持続可能な開発」

映像報告

城ノ下朗典「森林・生物多様性保全と持続可能な社会」



杉本　遼「熱帯雨林保全と持続可能な開発ーパーム油とコショウ、木炭ー」

評価

・環境（社会的・経済的）問題の複雑さ

・パームヤシに代わる現金作物の提案

・持続可能なサイクルを続けるためにできること

今後の活動について

今回の経験を生かして・・・

フェアトレードに関わりたい。

長崎外国語大学　小鳥居先生

活動プラン案

短期的

・活動団体にコンタクト
・フェアトレードマーケットを開催
・飲食店・大学で製品の利用

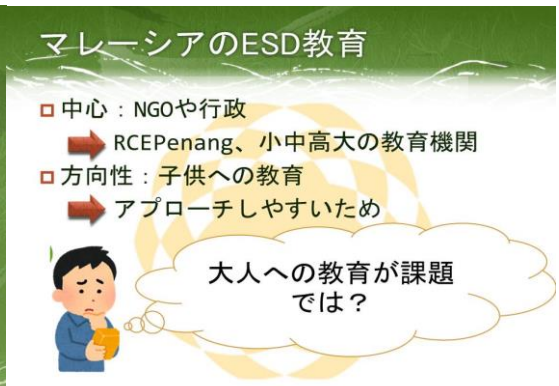
長期的

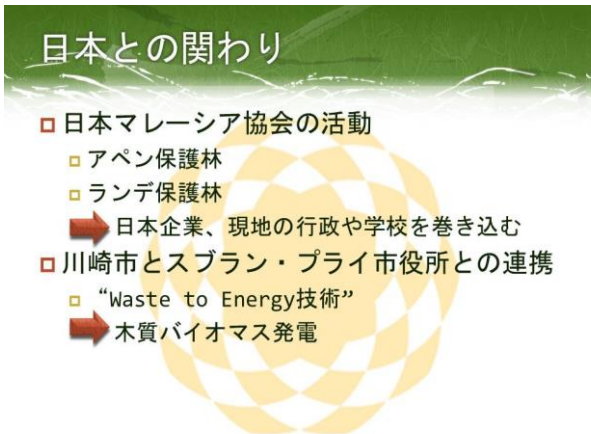
・フェアトレード市場の探索
（トンニボン村）

御静聴
ありがとうございました

TERIMA　KASHI

石川りさ「マレーシアの ESD の姿」





活動計画(短期)

- ecocon2016での企画[環境×仕事]
- 動機
  (1)環境分野におけるキャリアを築くための具体的なイメージの提供
  (2)自身のキャリア観のさらなる明確化
- 具体内容
  環境コンサルタント→環境NGOとキャリアを踏まれた方を講師に招き、WSを作成

長期計画

- 法人営業においてスキル・知識の育成
- プロジェクトファイナンスのコーディネーターへ
- 発展途上国への環境配慮型のインフラ組成を支援

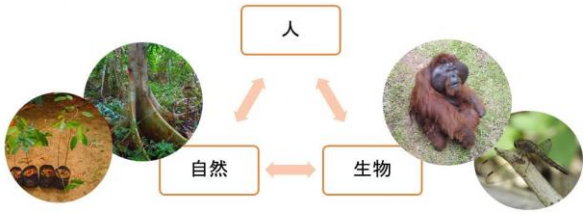
馬場千晴「マレーシアにおける ESD」

マレーシアにおけるESD

日本大学国際関係学部
国際教養学科　4年
馬場千晴

個人テーマと報告

マレーシアでのESD活動を通して学ぶ
①環境学習
②生物多様性
③世界遺産や地域の文化財等に関する学習



評価

＊「ことば」の壁
＊日本との関係性
＊国民のやさしさ
＊森林や水について興味・関心

＊国民のもつ若者に対する期待の大きさ
＊伝えることの大切さ(学校教育)
＊人と自然との関わりやつながり
＊環境問題に対する関心度
＊熱帯雨林での現状と課題(植林・労働者)
＊共生する社会づくり
＊継続する・繋げていくことの重要性

今後の活動(至近計画)

マレーシアや本研修内容報告
＊ゼミナール
＊サークル
＊授業内
＊付属中・高校での出前講座

今後の活動(長期計画)

「エコ・リンク・アソシエーション鹿児島」
薩摩半島自然学校プロジェクト

≪概要≫
＊地域社会の変化やニーズを把握し、環境共生型の社会実現に寄与すること
＊循環的な地域社会の実現と健全で永続的な社会を構築を目指す

既存の体験プログラム
対象:県内の生徒(12～18歳)
場所:鹿児島県全域
形態:民泊
内容:農と食、漁と食、工芸

新規の体験プログラム
対象:全国の児童・生徒、留学生
場所:県全域、外国(マレーシアを含む)
形態:民泊、ホームステイ
内容:農と食、漁と食、工芸、環境学習

草間由紀子「生物多様性保全と今後の環境教育に向けて」

生物多様性保全と今後の環境教育に向けて

2016/12/10

草間　由紀子
（横浜国立大学大学院　環境情報学府　修士1年）

研修テーマ

- 大学・大学院での森林生態系に関する研究
- 長野での「国際ユース環境会議」の企画・運営

『湿原林や熱帯林の生物多様性とその保全活動』
『ESDの1つであるマレーシアでの環境教育』

注目した研修内容

1、ペラ州のマタン湿原林

2、サラワク州の熱帯雨林及び生態系保全活動

3、マレーシアで行われている環境教育

研修報告及び評価 ①

マタン湿原林

木材・水産資源の提供

多様な生物の生息地

研修報告及び評価 ②

熱帯雨林

野生生物の保護

環境教育

今後の活動

①至近の計画

- 地元の森林生態系の研究を深める。

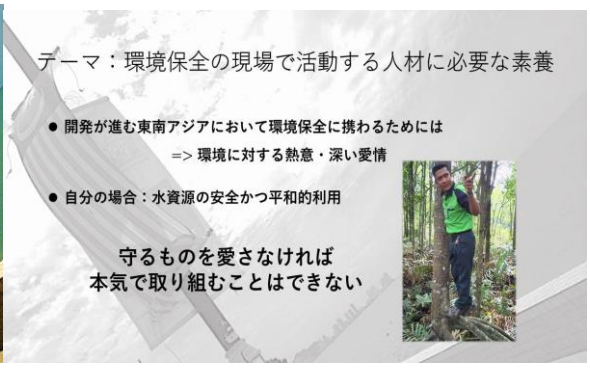
②長期の計画

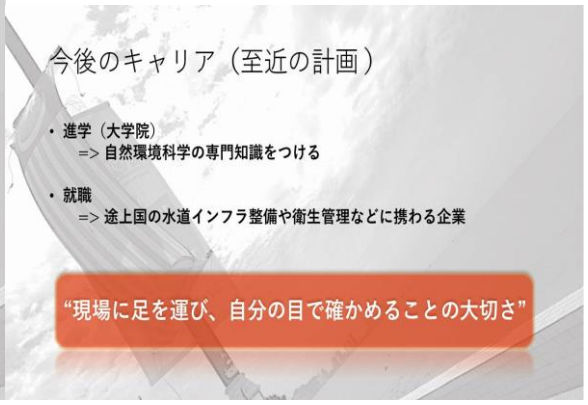
- 国際的な1地域1動物（植物）の保全活動

例：サラワク州-オランウータン、長野県-ライチョウ

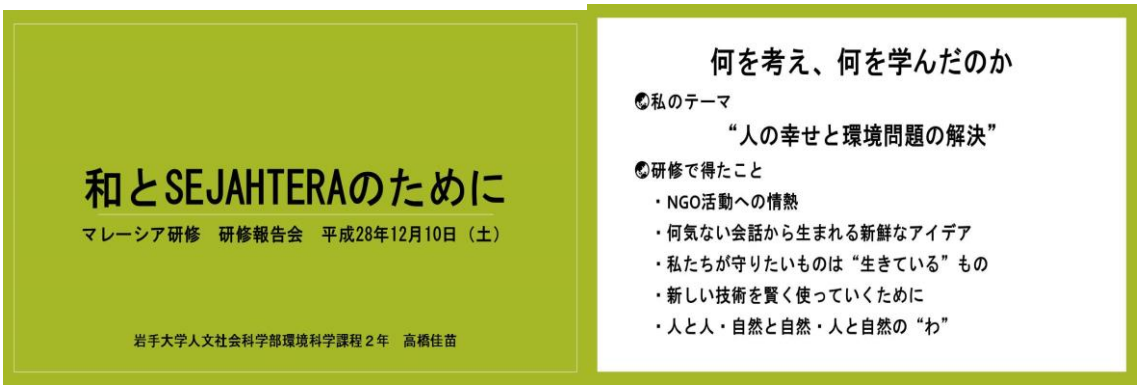
⇒互いの保全活動について意見を出し合い、地域に根差した生物多様性保全を行う。

大平友紀「これからのキャリア　マレーシア研修を通して得たもの」





高橋佳苗「和と SEJAHTERA のために」



考え方がどう変わったか

- 和×SEJAHTERA
  - ・どちらも調和や幸せ、平穏、平和という意味
    →共通の概念がある→イメージを共有できる
    →同じ目標のために取り組むことができる！
- 酒井さんの行動力
  - ・思いや気持ちを行動と結びつける
- 貧困問題への関わり方
  - ・Do you have money?（単純な質問ではない）
  - ・この問いに対する私の答え“自分の可能性を広げる”

すぐに私にできること

- 岩手大学環境マネジメント学生委員会
  課題：購買のレジ袋使用が去年より増加している

レジ袋のカードを作り、会計の際に学生にそのカードを使って簡単に自分の意思を表してもらう制度をつくる

↓

簡単なやりとりのなかで、環境問題と自分の生活の結びつきについて考える時間が少しでも増える

これから私にできること

- USMの学生と一緒に環境について考えた体験から…
  - ・専門の技術だけでなく、環境や幸せについて考えを共有できる機会がもっとあっていいはず！
- 「環境文化会議」プロジェクト（仮）
  - ・日本国内外の各地で小さな会議を開き、
    “環境問題”から“人が幸せでいるためには”といった幅広いテーマについて議論する
    →知識や技術だけでは解決できない環境問題の足掛かり

元村　萌「環境保全と人の関わり方」

環境保全と人の関わり方

北九州市立大学外国語学部英米学科３年
元村　萌

テーマ：環境保全と人の関わり方
報告

・社会、経済、環境の３つの側面

・保護　ｖｓ　共生
（保護区）
原生的自然　⇔　二次的自然環境

評価

１人１人の情熱・意志・愛

～今後の活動～
至近の計画（１年以内）

・環境に関する授業の受講
・学内でのマレーシア研修の報告会の開催
・地域で活躍している団体の活動に参加
・大学生のごみの分別率の向上を目指した活動の開始

長期の計画

「北九州市とマレーシアの交換学習研修」

参加者が相手国で環境に関する取り組みや政策を学ぶ。最終的にはどちらかの国で全体ミーティングを開き、双方がディスカッションする機会を設ける。

・対象：①中学生から高校生（都心と田舎の両方の学生）
　　②大学生から社会人：専門的
・訪問先：**マレーシア**
　私たちの研修での訪問先、アブラヤシ農園や企業、開発が進む地域　等
　北九州
　エコタウンセンター、環境教育を行う教育現場、ESDに取り組む団体、北九州市環境ミュージアム、シャボン玉石けんの工場、響灘ビオトープ、水環境館　等

～お互いが学び合える機会～

中高生：自国との違いを通しての多くの刺激、環境に対する意識変革、将来の夢につながる分岐点を経験

大学生・社会人：専門性を高め、お互いが取り入れるべき点を学び合う。企業の環境技術革新、環境政策の充実化につながる。

まとめ

研修のまとめとして、研修の評価に使われているカークパトリック 4 段階法を用いて評価しました。

1．研修計画の作成について

次の 4 点に重きを置きました。

① これまでの活動で蓄積した知識と経験を元にした研修を

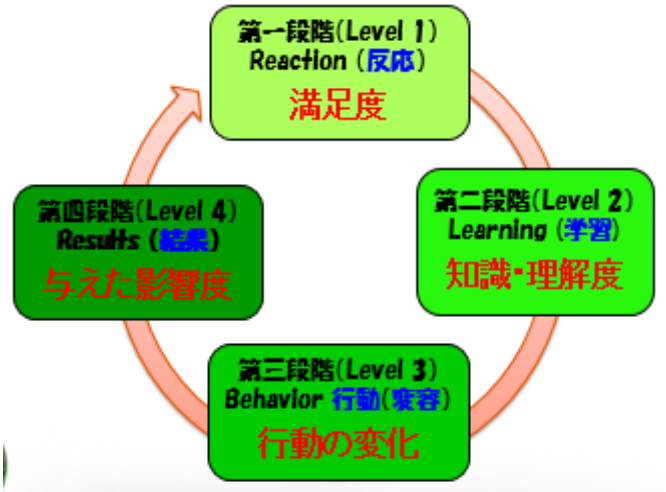
② テーマは、持続可能な社会・循環型社会・生物多様性・ESDを

③ 研修の前半は、半島側のペナン州とベラ州で、後半はサラワク州で

④ できるだけ体験を織り込んだ研修を

2．評価に用いた情報

- 情報は、研修終了時と研修報告会に受講者から得たアンケート結果を使用しました。
- 研修の評価対象は、a.プログラム構成、b.研修受講者の研修の効果がありますが、用いました設問には両面が含まれています。



(1)第一段階(Level)の Reaction(反応・満足度)

✧ 受講者の「満足度」を評価し、参加者の肯定的な反応で研修の評価をします。

✧ 研修終了後のアンケート調査で受講者の関心を得ることができなければその後の「理解」や「行動変容」の成果が期待できません。

(問)研修はあなたのとって有意義でしたか。また、期待対して応えていましたか。

➢ 全員が研修の意義に満足し、期待に応えていたと評価していました。以下は、意見です。

- 持続可能な開発は多面的に考えることが大切であることを感じた。
- 研修の間、持続的な開発とは何かを考え続けた。
- 受け身での活動には限界があり現場で体験しながら学ぶことの大切さを実感した。
- 自然保護と資源利用の適切なバランスが重要であることを実感した
- 開発途上国の自然資源を私たちも消費して生活しており、環境保護の難しさを感じた。
- これまで批判的な目で見ていたパームヤシは、そこに生きる人の生活の糧であり、これを止めろとは言えないと思った。
- 幸せの裏には自然の恵みがあることに気付いた。
- 知識でしかなかった環境問題の現場に生で触れることが出来て多くのことに刺激された。
- 環境の保護は、そこに住む住民の意識改革から始まると実感した。

- 情熱がなければ人々の価値観を変えられないと思った。

（2）第二段階（Level2）の Leaning（学習・理解度）

✧ ここでは、研修参加者の「理解度」を確認し、研修によって参加者の知識や技術が実質的に向上したかどうかを評価します。

✧ 研修に対する認知は、研修内容を正しく理解し習得していることを確認ます。

（問） 課題の整理と分析が出来ましたか。

➢ 研修の受講前に抱いていた課題が、研修を受講することにより、整理・分析が出来たとの評価でした。以下は、意見です。

- 自然は、そこで生きる人の生活と密接に繋がっていることに触れ、自然保護とは何かを考え続けた。
- 外からの批判だけでは自然は守れないことを学んだ。
- 受け身での活動には限界があり、自らが現場に触れながら学ぶことの大切さを学んだ。
- その基本になるのは現場での ESD 活動であることに気付いた。
- 地元住民との信頼関係の構築が大切であることを学んだ。
- 活動には情熱とプレゼン能力と住民との交流が大切であることを学んだ。
- 活動には情熱と愛と専門知識が必要であることを学んだ。
- 自分が行動することの大切さを実感したが一方で活動には資金が必要であることも学んだ。
- この研修で自分の意識が大きく変わった。

（3）第三段階（Level3）の Behavior（行動・変容）

✧ ここでは、研修終了後、一定期間を経て具体的な 行動変容が見られるかを評価します。

✧ 受講後の行動に変化見られるか、またその変化は望ましいものであるかを評価します。

（問）この研修での学びを活用できそうですか。または、活用したいですか。

➢ 受講後の時間がまだ経っていませんが以下のような変化が見られます。

➢ 3か月後のフォローアップ評価で確認したいと思っています。以下は、現状報告です。

- 地域活動に積極的に参加して国際交流の必要性の理解と仕組みづくりに取り組む。
- まず、キャンバス内の活動により積極的に参加することと地元で活動することから始めたい。
- 大学院に進学して自分の専門知識を深めたい。
- 今回の研修での経験は、今後の研究に多いに役立つ。
- まずは、自らが行動しなければと思っておりまずは付属中高校で出前講座を開催する。
- これからは消費者責任の重要性を意識して生活し地域のフェアトレード活動に参加する
- まずは、自らが行動しなければと思っている。

（4）第四段階（Level4）の Results（結果・影響度）

✧ ここでは、実務や実生活に研修による実際的・具体的な「インパクト」がもたらされたか、波及効果の有無とその程度どうかを確認します。

（問）この研修での成果（行動計画、戦略等）を実践できそうですか。または、実践したいですか。

➢ 長期的に見た研修の影響の整理ですが評価するにはまだ時間が必要であると考えます。以下は、今後の抱負です。

- これからは経済・環境・社会のいわゆるトリプルボトムラインの視点で活動したい。
- 就職は、持続可能な開発に敏感な企業を軸に考えたい。
- 将来は教員になってこの経験を子どもたちに伝えたい。

- 就職内定先が環境系のコンサルなので今回の研修で得た事柄を忘れないようにしたい。
- 地域でマレーシアとの若者の交換学習プログラムと環境文化会議を始めたい。
- 将来は、国際的な NGO 活動に参加したい。また、動物を軸にした国際交流をしたい。
- 将来は、海外で働きたくか青年海外協力隊活動に参加したい。

3．まとめ

① 研修は、効果的に学ぶことが出来、多くの成果があった研修であったと評価できます。
② その要因としては、①多様な課題を持つ生の現場に肌で触れたこと、②現地で活動している人の厚い情熱に触れたこと、③聞くだけの研修を避け、現場で自らが活動することに重きを置いたプログラムであったこと、④受講者の意識が高く、まとまりが良かったことなどが考えられます。
③ 一方で、一つの現場で十分な時間をかけて学ぶプログラムも取り入れた方が効果的であった思われ、もう少し時間にゆとりを持ったプログラムも心掛けるべきであったと考えています。
④ 受講生の反省点として、事前研修から現地研修の間に、現地研修に関連する情報収集などを通じて必要な知識を習得しておくべきであったの意見がありました。
⑤ これらは次年度以降の本研修事業の参考となりますので今後に引き継ぎたいと思います。

以上が研修実施者からみた研修の総括です。
本研修でお世話になりました皆様に改めまして深くお礼を申し上げます。
ありがとうございました。

公益社団法人日本マレーシア協会

研修総括者
専務理事　新井卓治
（ 日本大学・文教大学非常勤講師）
随行専門員
相談役　　森嶋 彰
（ 広島修道大学名誉教授）